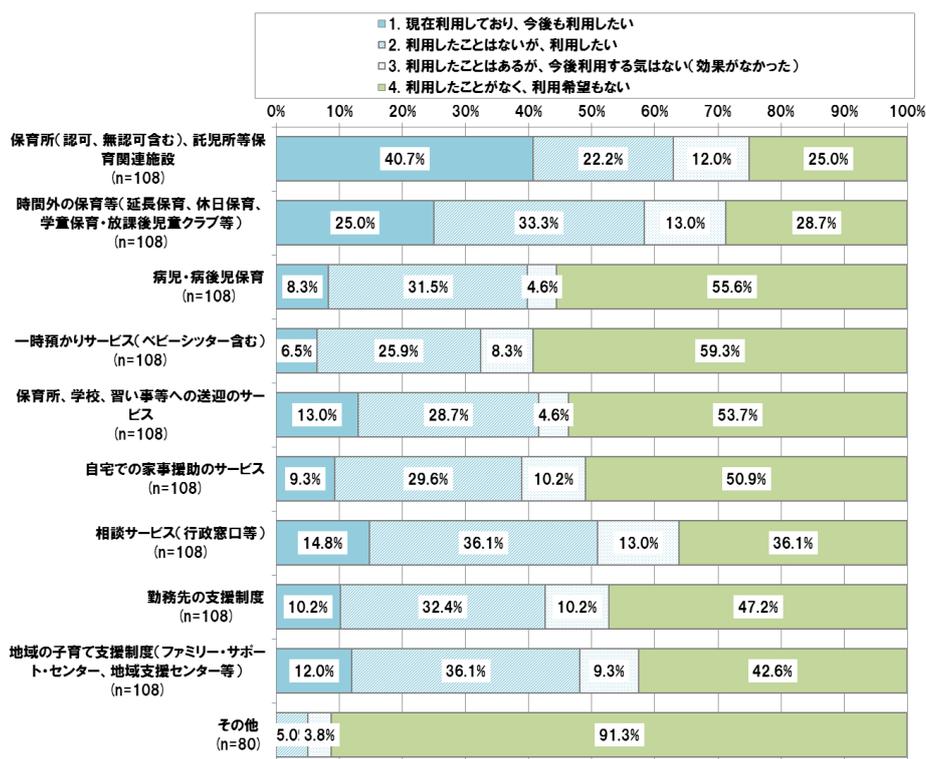
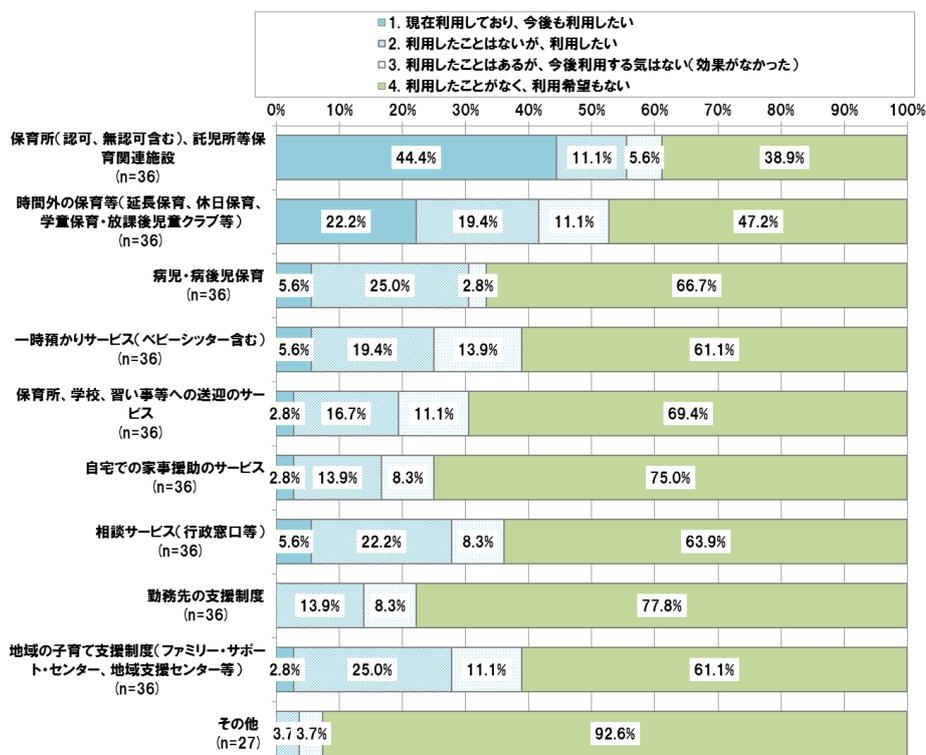


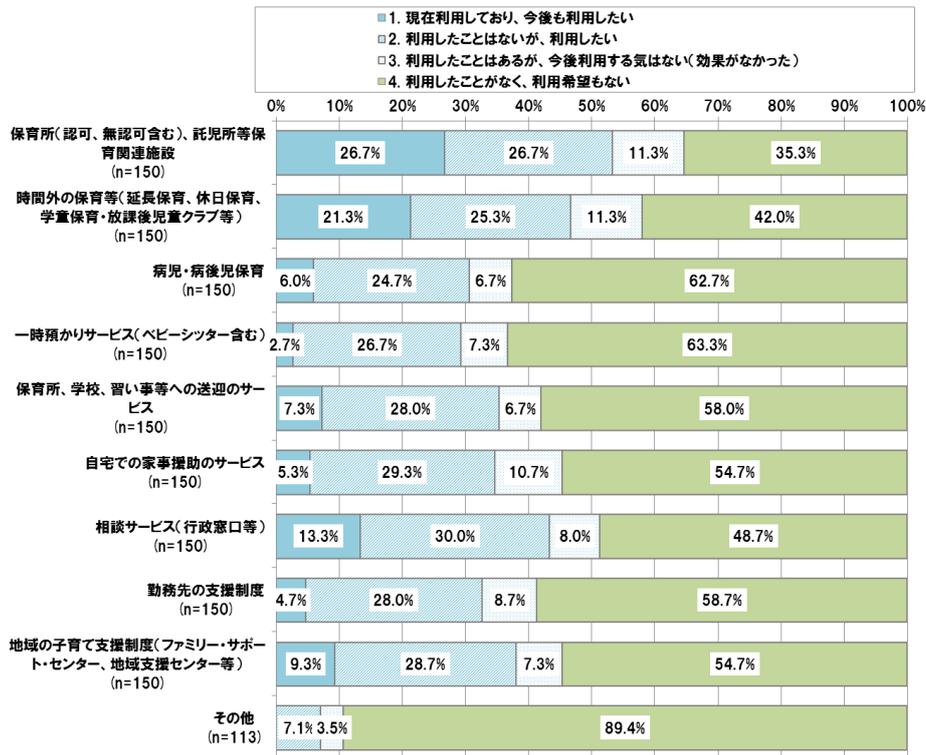
### 【介護のみ主】 男性



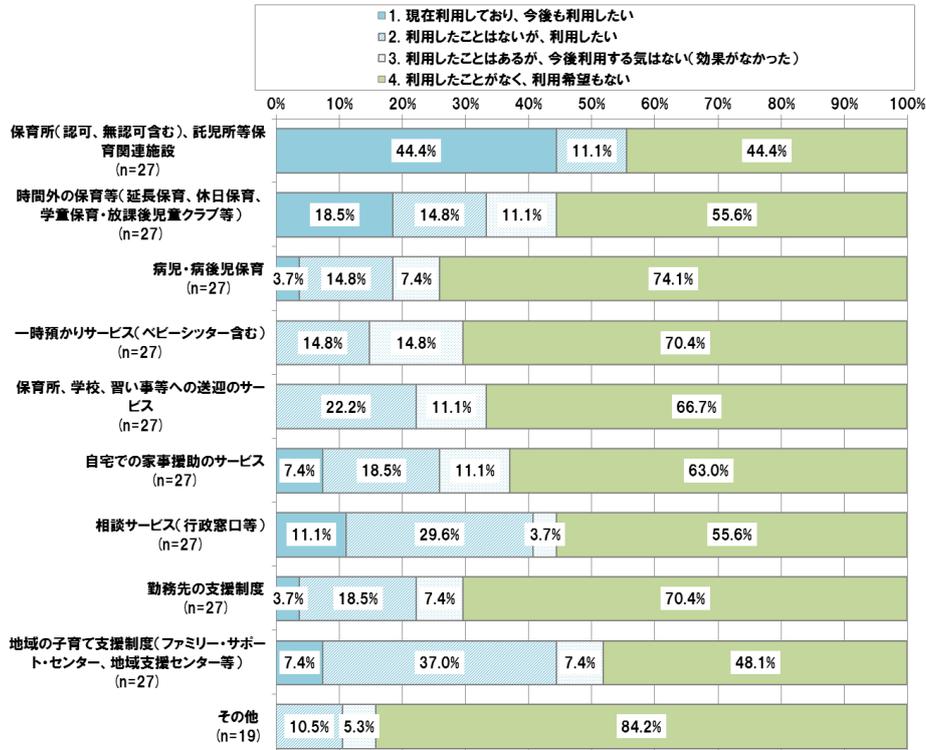
### (参考) 【介護のみ主】 女性



### 【子育て・介護とも主でない】 男性



### (参考) 【子育て・介護ともに主でない】 女性

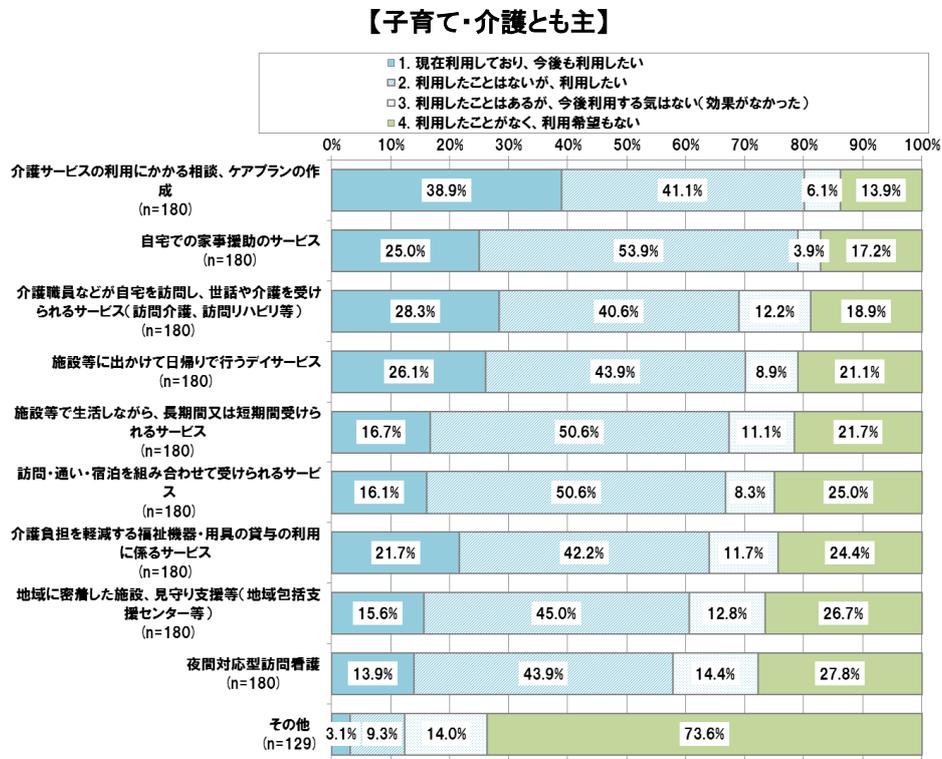


## (2) 介護関連サービスの利用状況

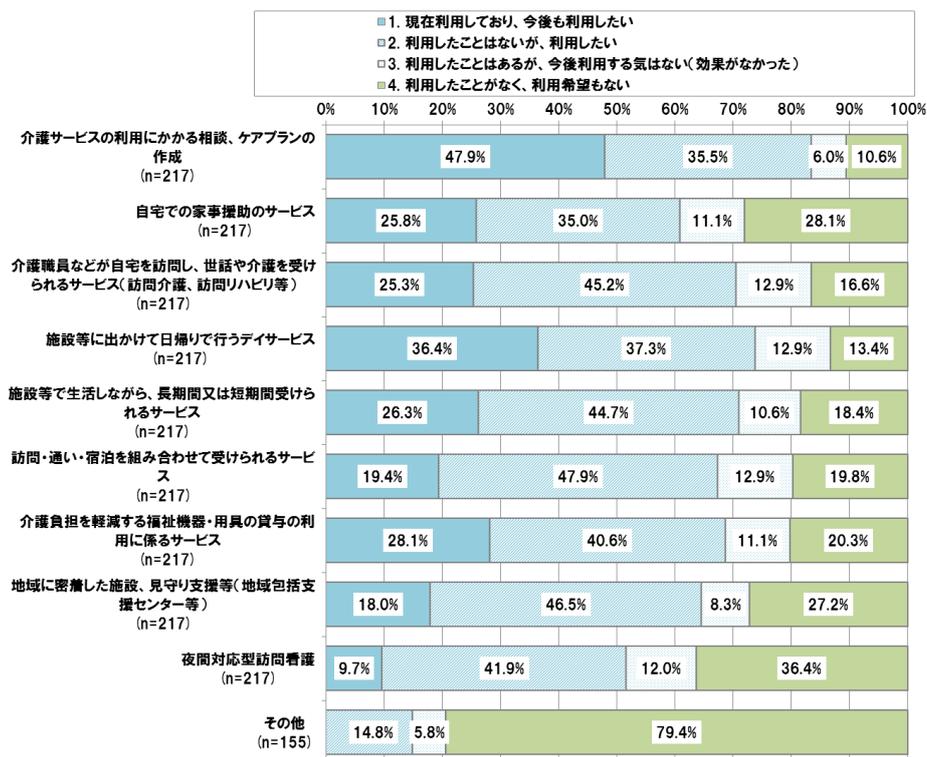
ダブルケアを行う男性が利用している介護関連サービスの利用状況については、「子育て・介護とも主」の層において、今後の利用意向を示す回答者（「現在利用しており、今後も利用したい」または「利用したことはないが、利用したい」を選択）が、全てのサービスで6割以上存在している。なお、同じ層の女性も同様である。

全体的には、子育て関連サービスの利用状況と比較して、男性と女性との利用意向の差が顕著ではなく、「子育て・介護とも主ではない」層については、ほとんどのサービスにおいて男性よりも女性の利用意向の方が高くなっている。

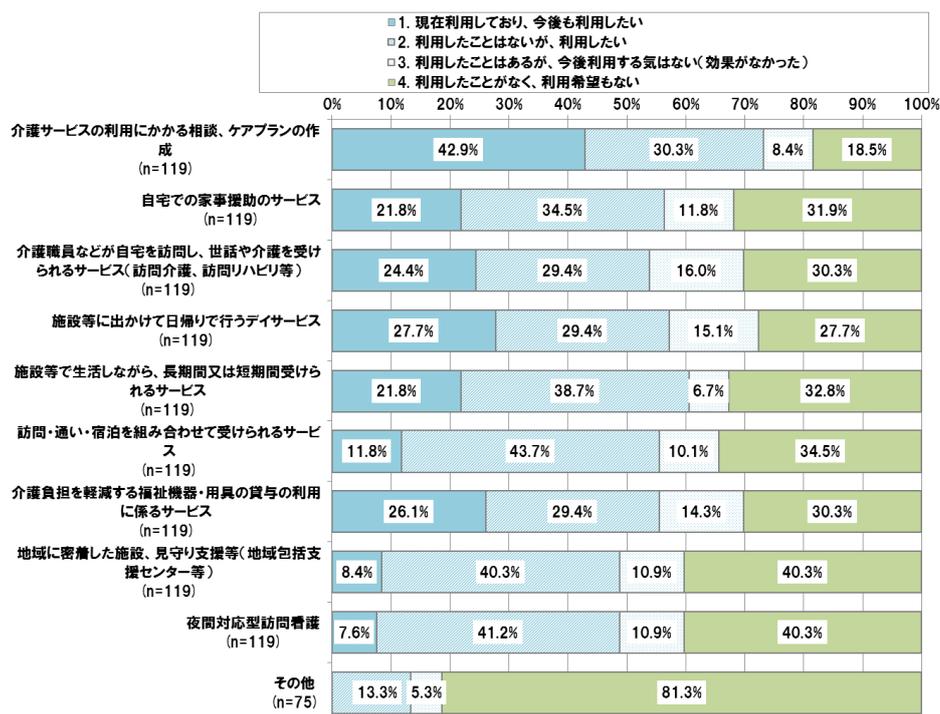
図表 5-26 男性のダブルケアを行う者の介護関連サービスの利用状況



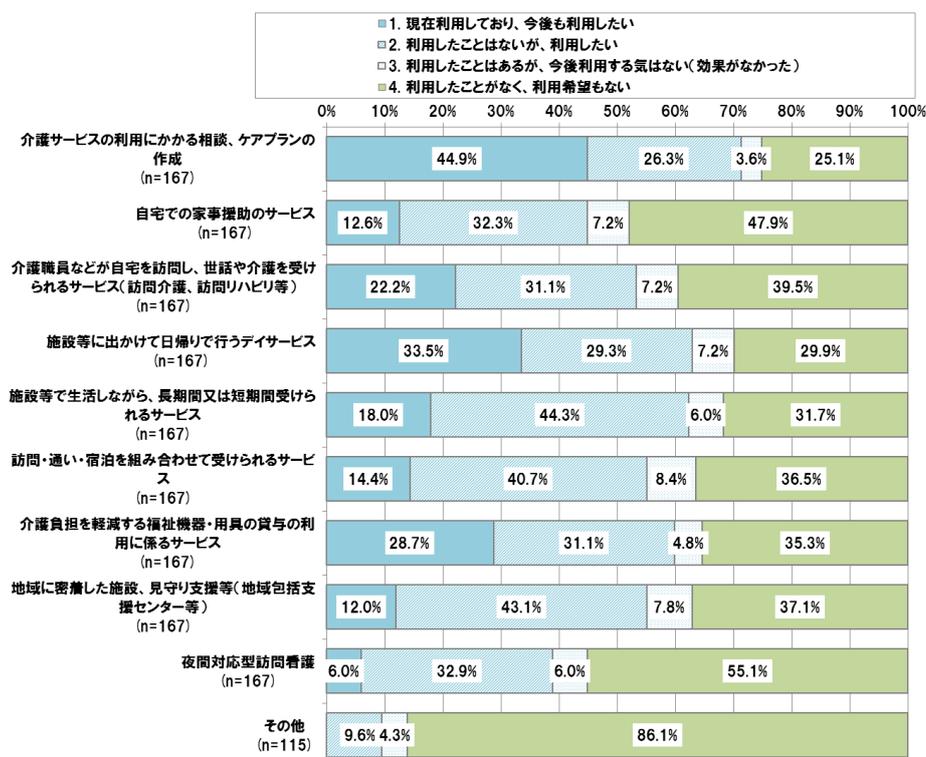
(参考) 女性のダブルケアを行う者の介護関連サービスの利用状況【子育て・介護とも主】



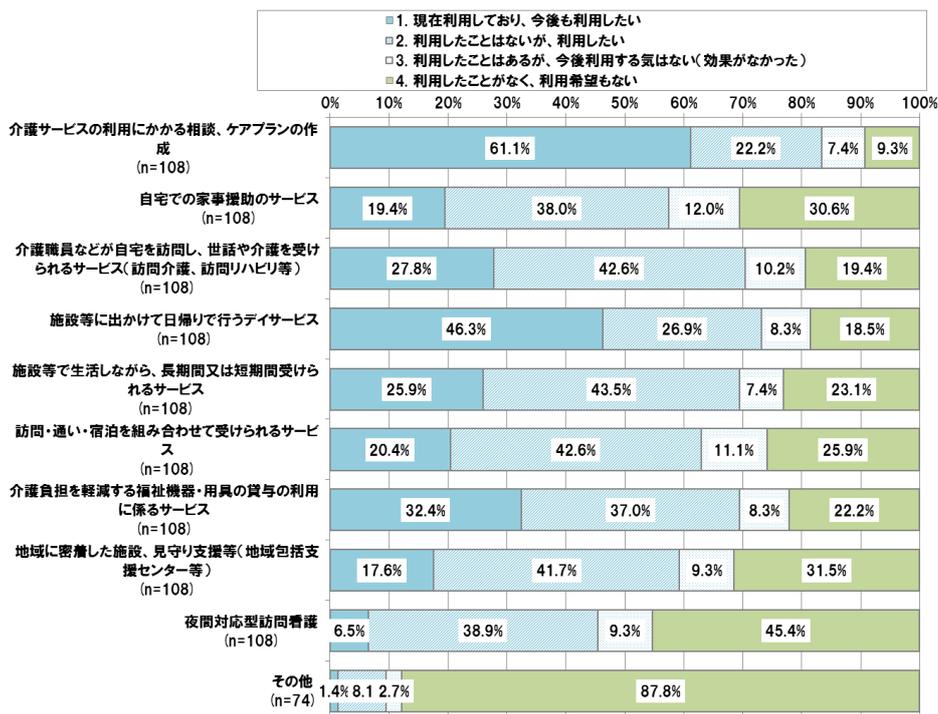
### 【子育てのみ主】 男性



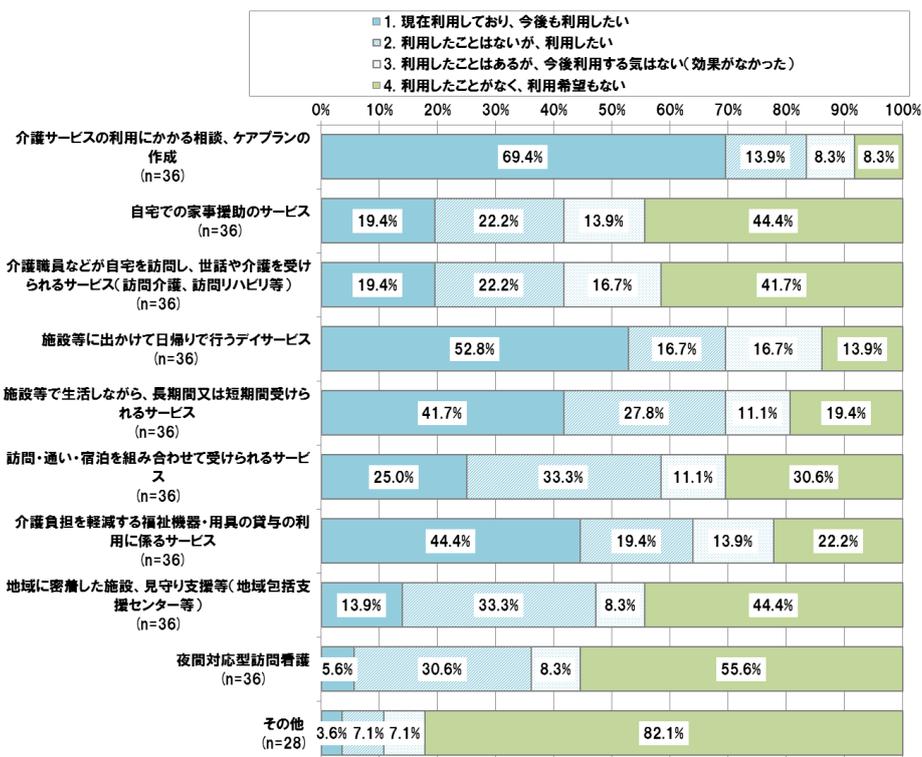
### (参考) 【子育てのみ主】 女性



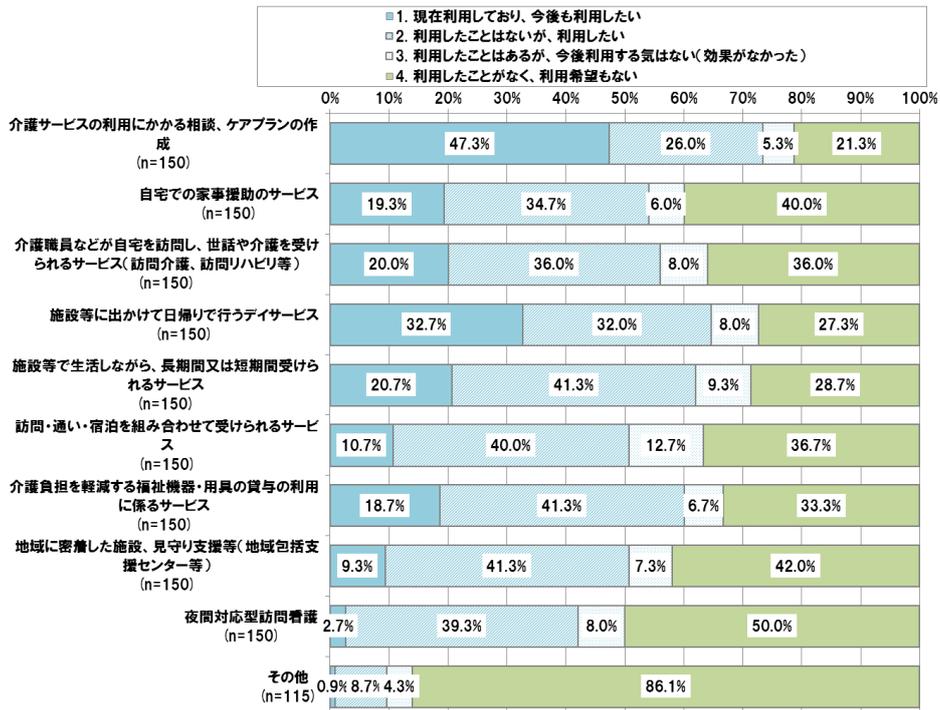
### 【介護のみ主】 男性



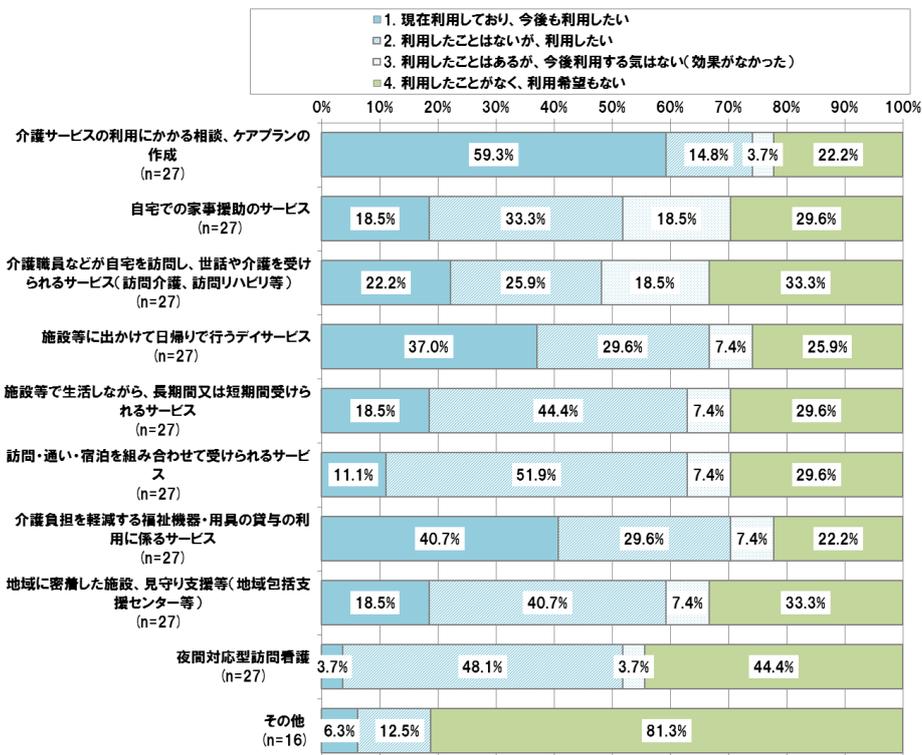
### (参考) 【介護のみ主】 女性



### 【子育て・介護とも主でない】 男性



### (参考) 【子育て・介護ともに主でない】 女性



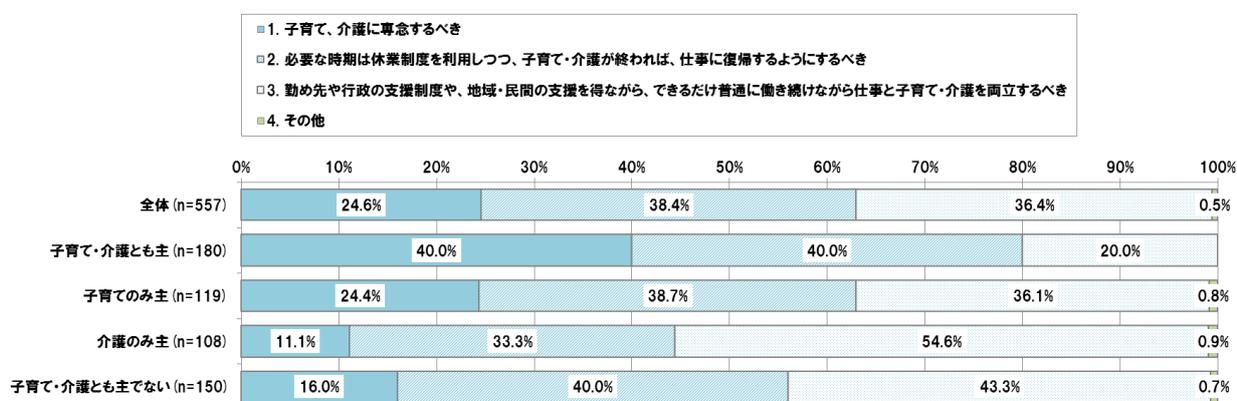
### 5.3.5. 男性のダブルケアを行う者の理想とする働き方と規範意識

#### (1) 理想とする働き方

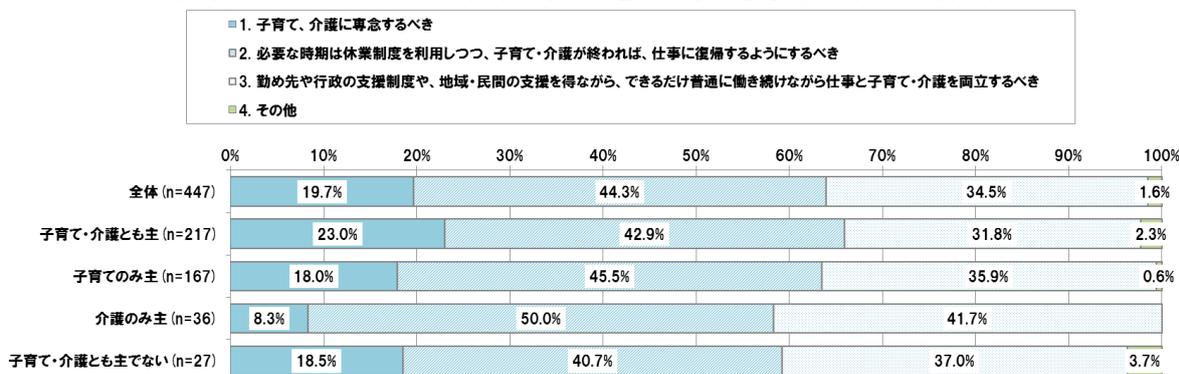
ダブルケアを行う男性が理想とする働き方については、「子育て・介護とも主」の層において、「子育て・介護に専念すべき」または「必要な時期は休業制度を利用しつつ、子育て・介護が終われば仕事に復帰するようにすべき」を選択した回答者が、それぞれ40%と高い傾向を示している。

他方、「介護のみ主」の層においては、「勤め先や行政の支援制度や、地域・民間の支援を得ながら、できるだけ普通に働き続けながら仕事と子育て・介護を両立すべき」が54.6%と半数以上を占めている。

図表 5-27 男性のダブルケアを行う者が理想とする働き方



#### (参考) 女性のダブルケアを行う者が理想とする働き方【子育て・介護とも主】

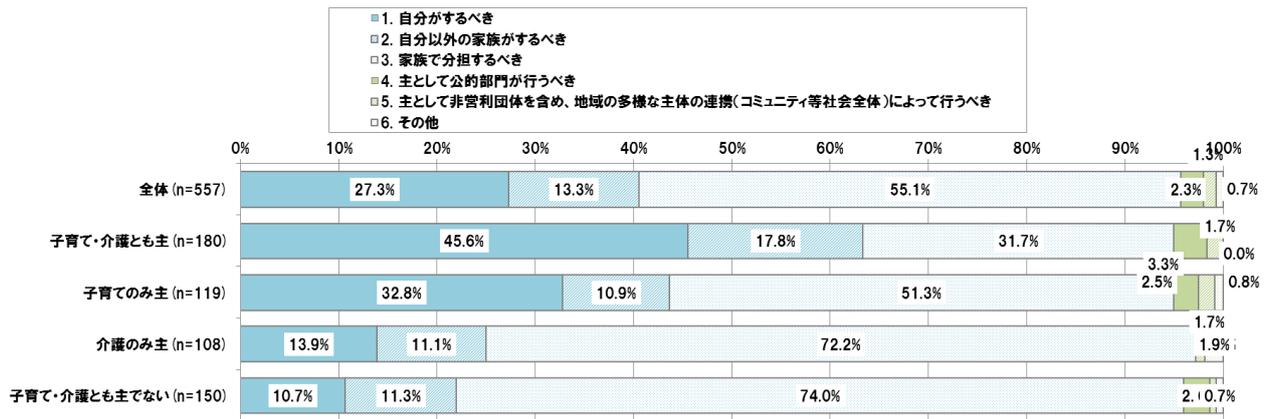


## (2) 子育てに対する規範意識

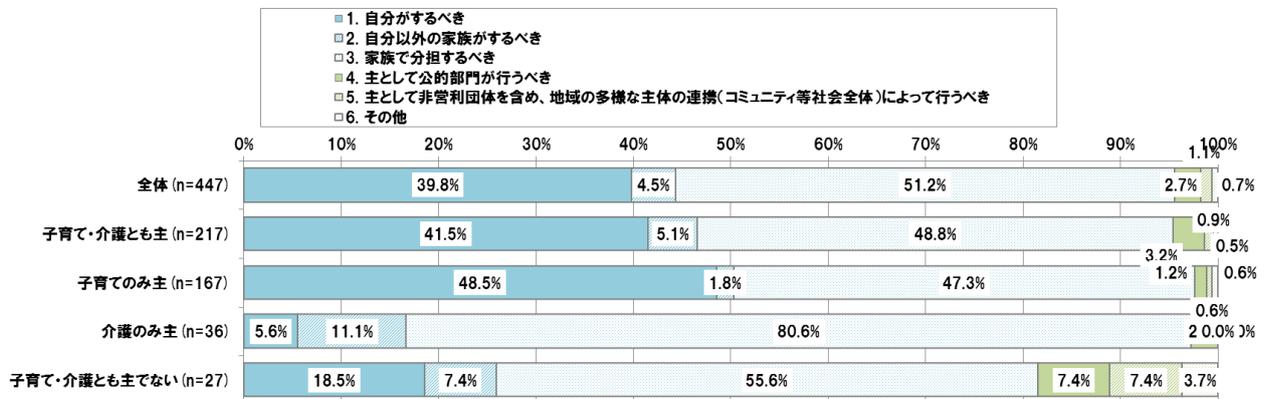
ダブルケアを行う男性の子育てに対する規範意識については、「子育て・介護とも主」の層において、「自分がすべき」を選択した回答者が45.6%と、他の層と比べて特に高い傾向を示している。

他方、「介護のみ主」及び「子育て・介護とも主ではない」の層においては、「家族で分擔すべき」を選択した回答者が、それぞれ72.2%、74.0%と7割以上を占めている。

図表 5-28 子育てに対する男性のダブルケアを行う者の規範意識



### (参考) 子育てに対する女性のダブルケアを行う者の規範意識



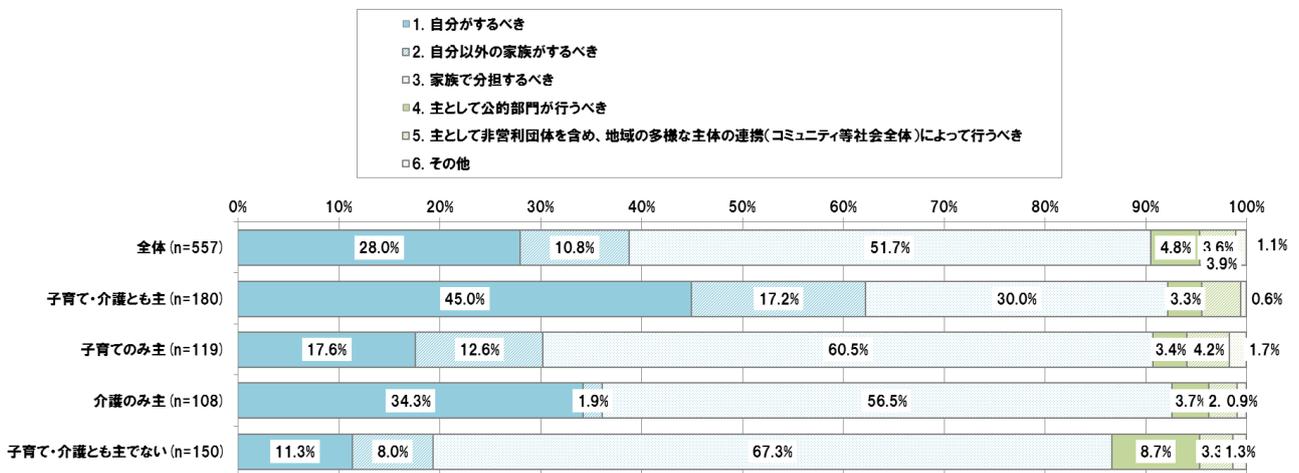
### (3) 介護に対する規範意識

ダブルケアを行う男性の介護に対する規範意識については、「子育て・介護とも主」の層において、子育てに対する規範意識と同様に「自分がすべき」を選択した回答者が45.0%と、他の層と比べて特に高い傾向を示している。

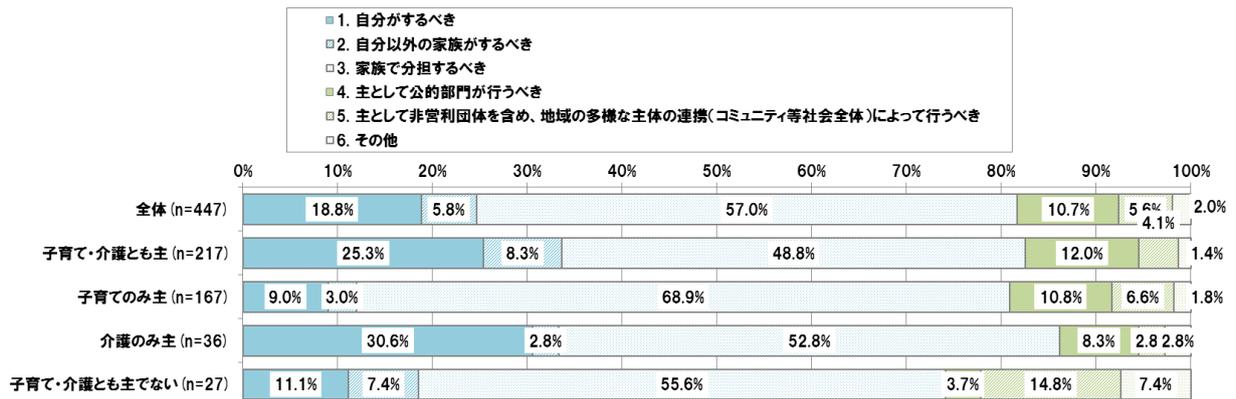
「子育てのみ主」の層においては、「自分がすべき」を選択した回答者が17.6%であり、子育てに対する規範意識での同じ層の回答者が32.8%であることと比べて、半分程度となっている。

さらに、「介護のみ主」の層においては、「自分がすべき」が34.3%であり、子育てに対する規範意識での同じ層の回答者が13.9%であることと比べて約20ポイント高くなっている。

図表 5-29 介護に対する男性のダブルケアを行う者の規範意識



(参考) 介護に対する女性のダブルケアを行う者の規範意識

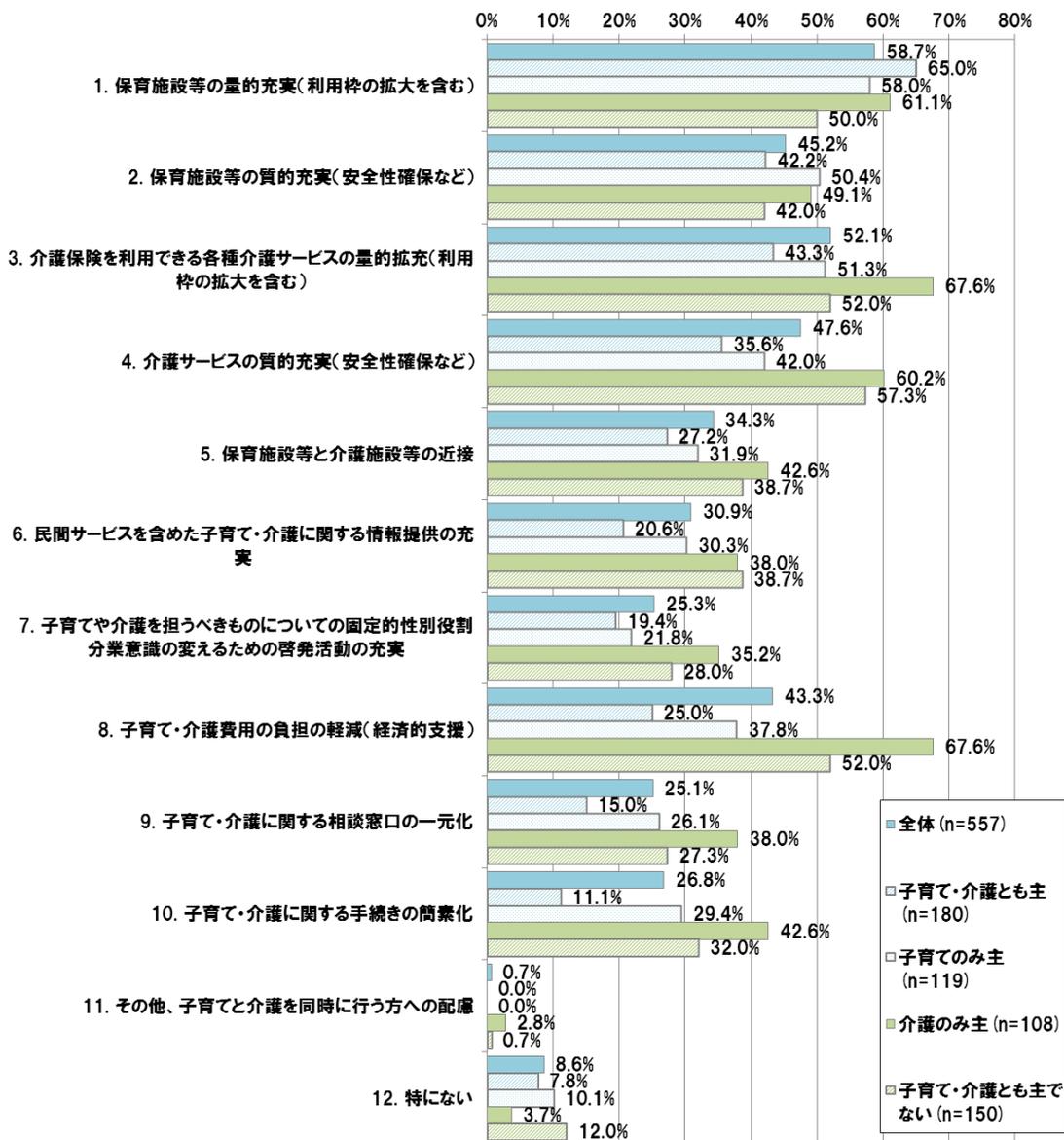


### 5.3.6. 男性のダブルケアを行う者が求める支援策

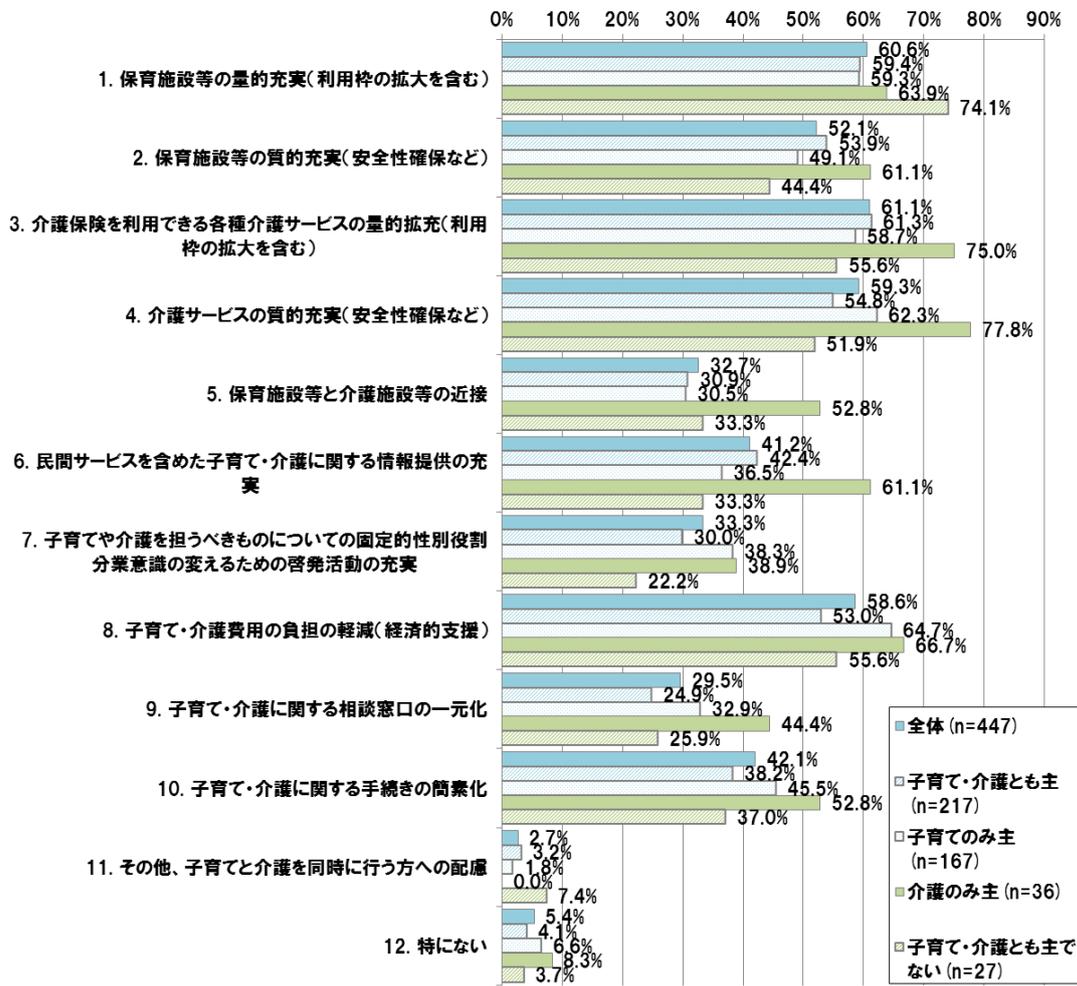
#### (1) 行政の支援策

ダブルケアを行う男性が求める行政の支援策については、「介護のみ主」及び「子育て・介護とも主でない」の層が、他の層と比べて全体的に高い回答傾向となっている。ただし、「保育施設等の量的充実」については、「子育て・介護とも主」の層のニーズの方が高くなっている。

図表 5-30 男性のダブルケアを行う者が求める行政の支援策



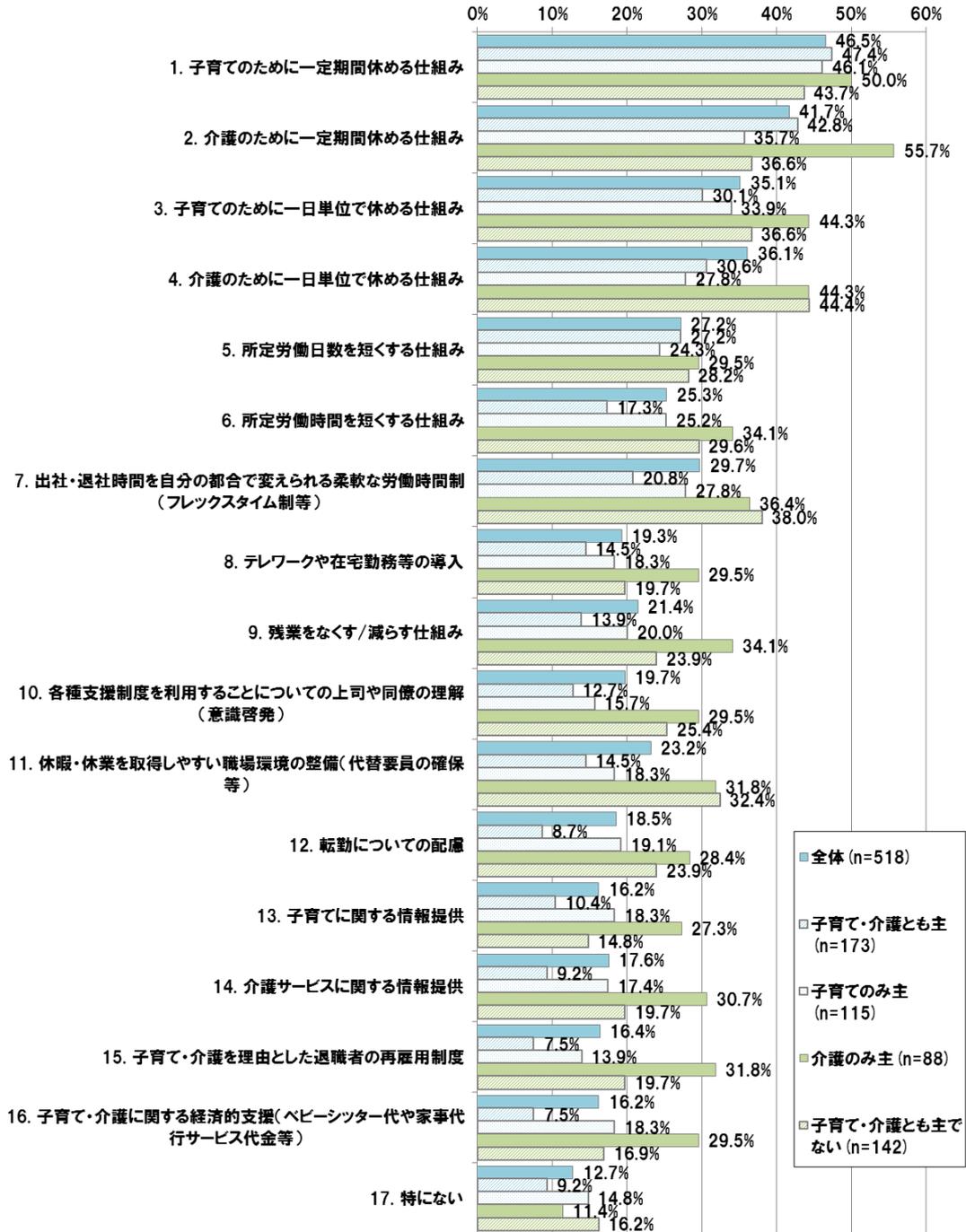
(参考) 女性のダブルケアを行う者が求める行政の支援策



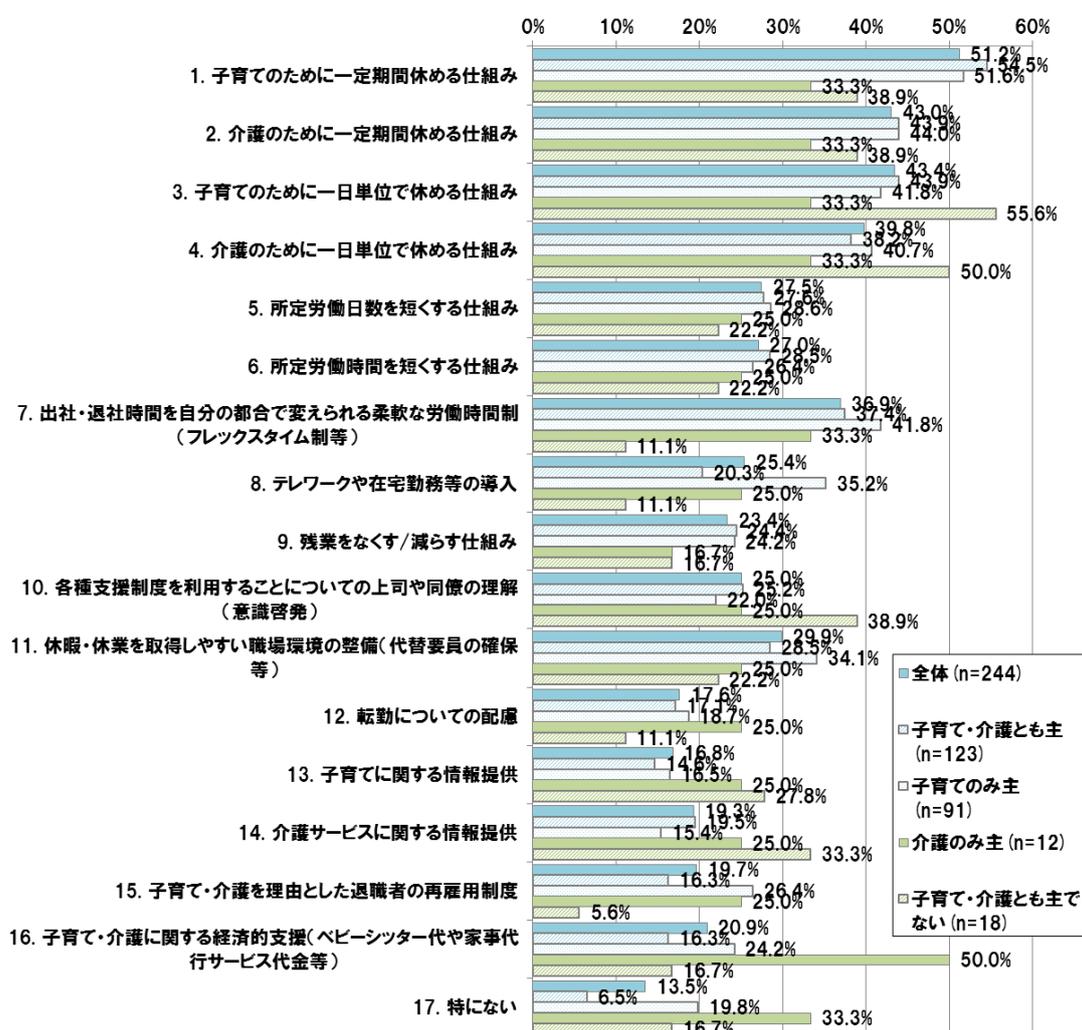
(2) 勤め先の支援策

ダブルケアを行う男性が求める勤め先の支援策については、「介護のみ主」及び「子育て・介護とも主でない」の層が、他の層と比べて全体的に高い回答傾向となっている。

図表 5-31 男性のダブルケアを行う者が求める勤め先の支援策



(参考) 女性のダブルケアを行う者が求める勤め先の支援策



5.3.7. 男性のダブルケアを行う者の特徴 (総括)

前項までの集計結果を踏まえ、ダブルケアを行う男性の実態及び特徴を下記にまとめる。

- ・ 「子育て・介護とも主」及び「子育てのみ主」の層は、30代～40代前半の年齢層が半数以上をしめている。他方、「介護のみ主」及び「子育て・介護とも主でない」の層は40代後半より上の年齢層が半数以上をしめている。
- ・ 4つの種類別の子育てに対する負担感については、「子育て・介護とも主」の層の負担感が、全体的に一番高い傾向である。続いて、「子育てのみ主」の層の負担感が全体的に高く、特に「社会活動の制約」及び「精神的負担感」が比較的高くなっている。他の「介護のみ主」の層は「肉体的負担感」が、「子育て・介護とも主でない」の層は「経済的負担感」と「肉体的負担感」が、それぞれ比較的高くなっている。
- ・ 介護に対する負担感については、「子育て・介護とも主」の層の負担感が、全体的に一番高い傾

向となっている。続いて、「介護のみ主」「子育てのみ主」「子育て・介護とも主でない」といった順に全体的な負担感が高く、負担感の種類としては「精神的負担感」及び「肉体的負担感」が比較的高くなっている。

- ・ 周囲のサポート状況については、「子育て・育児とも主」の層において、「隣人や地域の人」「友人、知人等」から何らかのサポートを受けている回答者が、それぞれ 6 割強存在しているといった特殊な傾向を示している。
- ・ 子育て関連サービスの利用状況については、「子育て・介護とも主」の層において、今後の利用意向を示す回答者が、全てのサービスで半数以上存在している。全体的には、男性の方が女性と比べて今後の利用意向が高い傾向がある
- ・ 介護関連サービスの利用状況については、「子育て・介護とも主」の層において、今後の利用意向を示す回答者が、全てのサービスで 6 割以上存在している。なお、同じ層の女性も同様である。全体的には、子育て関連サービスの利用状況と比較して、男性と女性との利用意向の差が顕著ではなく、「子育て・介護とも主ではない」層については、ほとんどのサービスにおいて男性よりも女性の利用意向の方が高くなっている。